

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>加仏箕谷の理念として、「入居者の一人ひとりが安心して明るくそして本来の持っている固有の機能を大切に、できるだけ自分らしく過ごせるように援助する」を基本に行動指針として、地域社会と交流を持つことをうたっている。出来る限り外出&amp;外食を心掛け地域の住民と接する機会を設けている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念および行動指針については、ユニットの誰もが見える位置に額縁付きで掲示している。また、ケース記録等入力の際に終日システム入力をしているが、パソコンのスクリーンに加仏箕谷の「理念」を表示しており、いやでも目の前に「理念」が目に入るよう工夫している。また、月1回の「勉強会」で具体的な事例を通し、理念を見つめなおし、思い起こす機会として実施している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>今年5月には、プロの落語家を呼び「なごみ寄席」を開催した。約60人もの近隣の地域の方々に来ていただき約2時間半入居者及びスタッフとともに楽しみ交流を持った。また、加仏箕谷を身近な施設として理解してもらうため、「加仏箕谷だより」(季報)を作成し、地元自治会に80部配布させてもらった。</p>	
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>朝の散歩では、できるだけ、すれ違った人々や途中の家の住民の人達に積極的に「おはようございます」の声かけをしている。散歩以外でもお隣の住民など顔を合わせたら必ず挨拶や世間話をしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>今年5月に、開催した「なごみ寄席」では、健康講話(アフレゾウ) 歌声喫茶「なごみ寄席」の3部構成で行なった。健康講話は、当法人の理事長(松田病院院長)にお願いした。歌声喫茶では、参加者とスタッフ一緒に大声で歌い大いに盛り上がった。また、運営推進会議のメンバーの方々にもお越しいただいた。一方、毎年地元自治会主催の「盆踊り」に参加させてもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他の事業所と比べても、離職数は多く、悩みの種ではある。採用時の入社後の心得や職場でのリエンテーションなどを通して、できるだけ計画的に根気よく教育・指導にあたっている。また、気になるスタッフには、都度それとはなしに様子をうかがったり、顔色や身なりに変化がないか気を使ったり、また、相談にのったりしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護研修 実践者研修は、全職員を対象に受講するよう考えている。業務に支障のない範囲で、順次計画的にやっている。また、無資格者に対しても、介護における基本的な技術講習を受けさせたり認知症介護の研修ビデオで学習している。また、介護経験の無いか浅い職員を中心に、生活場面における介護者の対応例を比較し、好ましいかわりを解説した、DVD「認知症の人と一緒に生きる」をみている。新人には、全シフト(4交替)を経験させる際も、リーダーを中心とした先輩職員によるOJTを行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の設立して長年が経つ他のグループホームとは、懇意にしており、計画作成担当者間で交流を持ったり、相手の運営推進会議の委員に認知症の知見者として当ホームの職員が加わるなど強いつながりを持っている。また、10月に開かれた保険・医療・福祉連絡会議施設連絡会に5名参加し、他のグループホームとのグループワークで意見交換を行なった。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の「勉強会」では、日頃仕事に没頭して、口に出せないことを自由に意見できる場を作っている。また、本来は、無くしたいが喫煙コーナーを設け、休憩時間に外コが吸えるようにしている。年数回全職員が集合して楽しく語らい飲食できる場(忘年会、新年会、ビアガーデン)を設けている。また、臨機応変に個人別に懇談している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	所長は、毎日介護現場に出向き入居者さんと接しながら職員の仕事振りを観察している。勤怠確認も月初行っている。食事昼食と夕食は、実際に目で見て、たまには試食もし確認している。また、日ごろの観察から個人別に正当に評価を行い昇給・賞与時の査定に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール(過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等を本人や家族に聞き)をシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」入力により入居者さんの行動や話したことは、記録し職員間で共有している。これらの情報を頭におき入居者の行動を拘束しないよう根気よく対応している。言葉使いもタメ口をきかないよう指導している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族は入居される前に、いろいろなグループホームに行き本人を預けて心配ないか確認されて入居されている。その際や、見学にこられた時など当ホームの理念・特徴を中心に説明を行い、十分に得心され入所されている。また、入所後も面会時間は、24時間いつでも可能にし、気楽にお話できるように職員にも指導している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時、入念に家族の方、本人から今までの生活様式、生活習慣などからの要望や注意事項等を聞き、それに応えるよう介護計画作成に努めている。また、計画どおり実行されているかチェックを怠らないようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>一律的に対応するのではなく、その人その時にあった対応を心がけている。入所当初は、ほとんどの入居者は、帰宅願望が強く、いろいろな理由を創作し帰ろうとされるが根気強く、他事業所(事務課、居宅介護支援、訪問看護)の職員も協力しながら、本人の行動を制限しないケアを行うとともに他の入居者と一緒に散歩など毎日欠かさず行くことによっても、できるだけ早く環境に馴染んでもらえるように努力している。</p>	
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームのレイアウトとして、中央に台所とスタッフルームを配置し、ダイニング・リビングがその隣にあり、ほとんどの時間をリビングで過ごされている入居者を見守れかつお話しができる。料理を手伝ってもらったり、柿をむいてもらったり、昔の歌を教わったり、テレビを見ながらお話ししたりごく自然な形で職員と入居者が毎日を過ごしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者に少し変わったところがあれば、かならず家族に連絡し相談している。また、家族も面会時などに気楽に相談されるし、入居者本人にとっていい方向に持っていくよう一緒に考えて対応している。また、家族の方で要らなくなった物品を寄付していただいたりもしている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の方にいろいろな話を聞き、特に入居者とは、日常の暮らしの中で昔の話をしたりして、暗黙知的情報を蓄積している。入居者がどうしても家族に会いたいといわれたり、面会が長期間途切れたりした時など、電話などで家族に連絡し来てもらうように仲介している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔商売していた商店街や思い出深い湊川神社に行きたいと言われれば、事務課の職員の協力を得て、また、OFFの職員がボランティアとして出かけたりもしている。また、お友達が尋ねて来られることも多々あるが、昼夜を問わず気持ちよく迎えている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほとんどの時間をリビングで過ごされるので、入居者同士の言動が目の辺りにわかり、馬の合う人、合わない人も職員が全て知っており、入居者の関係が一時的に悪くなくても、すぐに職員がフォローできる体制にある。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今年は、現時点で3名の方が退去されたが、ある家族からは、車椅子、テーブル・仮、ポット化などを寄付していただいたり、昨年亡くなられた家族の方からは、料理屋を閉店するので、要らなくなった食器や冷蔵庫など沢山のを寄付していただき、かつ現在非常勤スタッフとして働いていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お花が好きな方、散歩が好きな方、畑仕事得意な方、餛が好きな方、歌が好きな方、様々であるが、共通で喜ばれるのは、外出である。一度には出来ないで、計画的に歌謡ショーには年1回行ったり、桜、つつじ見物、畑仕事(芋ほり、スウとり、なすび、イゴ狩、玉ねぎ、赤紫蘇とり)、外食(カミ・ステーキ、回転すし)、森林公園ドライブなど年間を通して行っている。また、コピエ餛の買い物、音楽療法も日常的に実施している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール(過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等)を本人や家族に聞きシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」の入力により入居者さんの言動は、逐一記録し職員間で共有している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>グループホーム管理システムの「ケース記録」で入居者の過ごされている様子をほとんど切れ目なく入力している。また、朝には、バイタルを計り、臨機応変に体重測定もおこなっている。このような情報や職員からの申し送りによる情報をかみ合わせ最新の入居者状況を把握している。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の毎日の行動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」の情報や職員の持っている情報や思いをもとにアセスメントを行い、ケアプランを開き、また、家族からの要望や意見など日頃から聞いていること、及び「家族会」や「運営推進会議」での意見や要望を反映した介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者の状況が変化した時および定期には3ヶ月毎に入居者とその家族の要望を確認し、職員を交えてケアプランを行っている。これにより介護計画の見直しを実施している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>過去に4人の入居者が、他の施設(精神科病棟)に移られたが、移るにあたり家族とは、時間をかけ、十分に話し合い納得づめで移られた。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常のケアの中で、職員同士でお互いにプライバシーに係ることで気づいたことがあれば声を掛け合っている。広報誌の写真なども了承を得ている。職員の入職時に、個人情報保護についての説明を行い、周知している。ターミナルケアに入った入居者は、リビングのコーナでおむつ交換などの際には、カーテンで見えないように配慮している。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>毎日の食事メニューを決める時も、入居者に今日は何食べたいですか?とか、アクティビティの際も、どんな歌を歌いましょうかなど入居者の気持ちを聞き、心の中にあるものを引出すよう働きかけている。</p>		
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>過去、昔商売していた商店街や思い出深い湊川神社に行きたいと言われれば、他事業所の職員の協力を得て、また、OFFの職員にボランティアとして出かけている。散歩が好きな入居者には、朝の散歩に加え昼もその入居者だけにスタッフが同伴している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月1回理美容師が来所し、カット、セットを行っている。今の入居者にはいないが行きつけを要望されたらできれば家族が同伴していく。また、年数回お化粧ボランティアをお願いしており、女性の入居者には喜んでいただいている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも、スタッフが料理をつくり、食材の買出しも近くのスーパーに入居者と一緒に行き、料理も手伝ってもらっている。配膳、下膳とも入居者にしている。また、個別には、家族からの差し入れ(うに、サシ)があればそれを1品として出したり、要望によりある入居者には朝食に必ず「バナ」を出している。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	あんこの好きな人に、あんこ汁やジェリーの好きな人にはジェリーを出している。また、入居者の好みに合わせ献立を考えている。また、栄養の偏りの無いように注意しながら決めている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜にオムツをしている入居者も日中は、リハビリマットを使用して訴えや様子を見てトイレ誘導している。失禁されるとその様子から見分けられるので、トイレに行くように声をかけ誘導し介助をしている。また、排泄後には必ず陰洗を実行している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間に自由度を持たせ9時～17時の間で基本的に入居者の入りたい時にしている。毎日入りたい人は毎日入浴し、そうでない人は、本人のペースに合わせているが少なくとも週3回入浴するようにしている。また、柚子湯・加湯・菖蒲湯などお風呂を楽しんでもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝の散歩や軽い体操、買い物等のできるだけ体を動かすことを日課とし、自然な生活リズムの中で安眠策を取っている。寝つきの悪い入居者には、スタッフルームや冬には、コタツに入り温かい飲み物を飲みながらお話しをして気を落ち着かせている。薬にはできるだけ頼らないようにしている。また、寝る前に足湯をしたりして眠りやすい工夫もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には、食事の料理の手伝いや、配膳・下膳、畑仕事(種植え、収穫など)、居室の清掃、廊下・階段の掃除、洗濯物の片付けなど得意なことや好きなことで役割を持ってもらっている。毎朝、朝の体操では、「北国の春」の曲でボ-加担当の入居者を中心に実施している。なごみ寄席(イベント)では、入居者の出番を作り、美空ひばりの 真っ赤な太陽 と、にしきのあきらの 空に太陽があるかぎり で「リハビリ体操」をステージの上でやってもらった。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの鍵は、日中は鍵はかけていない。よるの8時から、防犯のため電子ロックをかけている。また、居室の窓も普通に開けるようにしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所仕事をしていても、利用者が良く見えるレイアウトになっており、危険を感じたらすぐに駆けつけられるようになっている。仮に、ホーム内から職員を目を盗み外に出ても、事務所を通らなければ施設の外の出られないようになっている。事務所には、必ず誰かスタッフがいるので1人で外に出ることはできない。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の方々なので、口に入る小さなものは、食べられたりする危険性がある入居者に対しては、スタッフが預かったりしている。心配のない人は、普通にしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアル(転倒・誤嚥・誤飲・無断外出)や緊急時対応マニュアル(緊急時連絡ルート・緊急時対応の詳細)の説明は、入職時オリエンテーションを行っている。また、刃物(包丁・はさみ)など、夜になれば、スタッフルームに保管している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルを、スタッフルームに備え付けている。また、呼吸器の扱いなど、勉強会で講習している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルにより年2回(夏・冬)消防訓練を実施している。訓練では、通報訓練、避難訓練、総合訓練および水消火器による消火訓練を行っている。また、スタッフルームに、緊急時にも対応できるように火災時行動ポスターを掲示している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の変化(高齢化、重度化)に伴って、家族と話し合い、計画作成担当者がプランに反映している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の言動およびバイタルは、グループホーム管理システムの「ケース記録」・「バイタル記録」に入力しているので、シフトが変わっても情報が途切れることなく入居者の状況は把握できる。かつ、シフトが変わって出勤した職員に対して、入居者の状態や注意事項などあれば申し送っている。また、職員がその都度異変に気がつけばリーダー・所長に即報告して対応している。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に、処方された服薬表をもとに入居者個別(薬箱)に朝・昼・夜に分けて管理しており、服用前には、職員の2重チェックにより分袋し、かつ、入居者の確認をとり、服用してもらい、服用後は、服用担当者が捺印して、漏れや間違いを起さない配慮をしている。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	グループホーム管理システムの「ケース記録」で入力された排便の状態と量を確認し、食事に食物繊維(レタス、ごぼう、バナナ等)を取り入れる等心がけている。また、整腸のため主食の他にヨーグルトやワルトを付けている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	月1回連携協力歯科医院に往診を受けている。口腔ケアの要領、注意点などの指導を医師、歯科衛生士から受けている。朝・昼・夜の食後のマウスケアや義歯洗浄など介助している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・味については、入居者の好みを頭に入れ、季節に応じて、記念日や祝日にあわせたものを組み込むよう考えている。水分確保は、所長(看護師)が、臨機応変に職員に適量(目安として1日1,400cc)を指示しており、不足している入居者には医師に相談し点滴を行い補っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、全員の手洗いやうがいの徹底を図っている。毎年11月にインフルエンザの予防注射をおこなっている。また、保健所からの食中毒情報(通達・発生)は、朝のミーティング(連絡事項が主)で知らせている。掲示板にも食中毒情報を掲示している。一方、使用したまな板や包丁は1食材毎に洗浄し、同時に手洗いもしている。夜勤帯でも、まな板、食器入れ、ゴミ入れ、排水口を除菌している。		
79 食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は近くのスーパーを主にできるだけ入居者と買物に行っている。大量の購入は避け、新鮮なものを都度購入している。また、冷蔵庫から食材料を取り出す際に、賞味期限のチェックをするようにしている。また、冷蔵庫は、古い物から順に手前に置くようにしている。		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	もともと施設が、長屋の家に両脇から囲まれるようになっており、分かりにくい位置にある。施設の向かい側に「案内板」を電柱に設置し、施設入口付近に、目立つ大きな看板を設置している。施設の玄関の前には、草木を植え、花鉢や金魚鉢を置き親しみやすさを出している。		
81 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は回廊型で見当識障害に対応しており、居間と食堂と台所が一体となった家庭的な作りになっている。 トイレも普通家庭と同じように各居室のすぐ近くに設置している。 施設玄関が道路から奥まっている為、施設入口付近に事業所名が入った目立つ案内板を設置している。 施設周りと玄関付近には、葉が夕、ハンジ、つつじなど四季にそった花木を植え、1階玄関前には金魚とどじょうの鉢を置いており親しみやすさと入り易さを表現している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一番端の落着ける場所に2~3人掛けのチェアを設置しており、実際に気のあった入居者が利用しておられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)